

会 議 録

1 会議名

令和2年度第5回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・地域協議会会長会議について（公開）

【協議事項】

- ・自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和2年12月21日（月）午後6時30分から午後7時26分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター 研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、樺沢早苗（副会長）、池田憲雄、内山幸一、
荻原慶一、栗間良子、佐藤正知、杉林文義、高橋邦夫、高橋秀樹、
長谷川陽一、平井弘一郎、藤井英夫、山崎栄一、渡辺恵子
（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：樺沢副会長、杉林委員に依頼

議題【報告事項】地域協議会会長会議について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

11月25日（水）に開催された「地域協議会会長会議」の内容について報告させていただきます。

- ・資料No.1「地域協議会会長会議 次第」、
「令和3年度地域活動支援事業について（案）」に基づき説明

【熊木会長】

私のグループは、大きな区は有田区と和田区だけで、あとは中山間地の区なので、全然感覚が違ふし、抱えている問題も大分違ふ。課題になるのは人口減による対策や、小学校の統合問題が結構出てきている。その件の地域協議会の関わりを参考にしたいというような意見がよく出ていた。地域性があるのは仕方ないが、グループ討議をしても似たような区同士であれば良いが、全く違ふ地域との話になると、どうしても煮つまらない話が多すぎる。結局、限られた時間だったので自分の区のやったことの発表で終わった。会長会議をどうするか、今後の課題として事務局で考えてもらえればと思う。今回新しい会長がものすごく多かった。参考になるような話もあまり出ていない。

事務局の報告に対し、質疑を求める。

【栗間委員】

11月8日にレインボーセンターで開催された議会報告会と意見交換に参加した。その際、直江津区の地域協議会委員の人だと思うが、直江津区と有田区の地域活動支援事業の内容が異なるという意見が出た。市議会議員の人は、それぞれの区にお任せしているということで、その場は終わった。直江津区の地域活動支援事業の内容を調べたが、17提案のうち8提案がまちづくりに関係する事業内容だった。有田区は10提案のうちの1提案だけが、まちづくりに関する事業内容だった。そういうことを言われたのかと改めて感じた。その時の内容は、そこで話を聞くことができなかったもので、そういう意見もあったということだけお伝えする。

【熊木会長】

それは市議会議員の人が言われるように、直江津区の特徴でやっているのだから、私たちが直江津区の補助金の使い方が良いとか悪いとかは言えない。他の区に言われたか

らといって違うのかと悩むよりも、他の区の参考にできる部分は参考にすればよいと思うし、直江津区の地域活動支援事業は、基本的には地域的な団体からの要望が非常に多い区なので、毎年大変な思いで採択審議している区である。

【高橋秀樹委員】

今の栗間委員の話の中で、まちづくりと関係ない提案という表現があり、有田区は1件のみまちづくりというが、私は客観的に見て、学校の問題やカルチャーセンターの問題にしても、まちづくりの一環を担っている。だから一概に使っている目的自体は、まちを良くしよう、地域を良くしようということでやっているから、有田区がまちづくりに該当するのは1件しかないというのではなく、よく検証すべきである。

【熊木会長】

高橋秀樹委員が言われるように、有田区は今のところ非常に大きくなっている区なので、人づくりに対応しているケースが非常に多いことは確かである。基本的に人を育てる事業もまちづくりだという認識でいるので、どういう事業であれ、それが直接的、間接的に地域のためになれば採択する。

【高橋秀樹委員】

地域協議会の会長会議のグループ分けに工夫が必要だと思う。ただ自動的に振り分けて、人口規模が違う、予算規模が違うところ同士で検討しろということ自体、無理がある。地域性や発展性を加味した上で、イメージを作ってワーキンググループを分けてほしい

【小池係長】

今年の会長会議のグループ討議は、特にテーマも決まっていなかった。委員改選があり新しい会長が多いので、顔合わせという趣旨も大きかったと思う。

【高橋秀樹委員】

意見交換会という表現が悪い。情報交換会なら良いが、意見交換は自分たちの規模の中のことだけの意見を言っても、右から左に通過するだけの話になる。「うちはこんなことをやっているが、これは大きいところで使えないか」小さいところは「我々こういうことを官民でやっているがどうか」と意見を聞く会議に変えないと駄目だと思う。

【熊木会長】

こういった意見があったことを自治・地域振興課に伝えてほしい。
他に質疑を求めるがなし。

次に【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

有田区は、「新設小学校開設後の小猿屋小学校跡地の有効活用について」というテーマが残っていたが、8月の地域協議会において審議終了ということになった。本日は、今後有田区地域協議会で審議したほうが良いテーマについて、意見交換をしていただければと思う。本日テーマを決めるということではないが、もし、ご意見があればいただきたい。

また話題提供だが、上越市「地域の宝」という認定制度があり、教育委員会の文化行政課で募集し今年度は60件の地域の宝を認定した。担当課に問い合わせたところ、今回申請がなかったのは北諏訪区と有田区だけであった。何かあれば、ぜひ来年度申請してもらいたいという話があった。

【熊木会長】

事務局の説明に対し、質疑を求める。

【高橋秀樹委員】

先般、公共設備の統廃合とか廃止の問題とかいろいろテーマであったと思うが、我々のところはカルチャーセンターだが、これだけのグラウンドと素晴らしい設備を持っているのは、上越市の中でもなかなかない。ここの例でいうと、天井の雨漏りを直していただくのは活用頻度が上がらないと、直してもらえない。ここをもっと整備をしながら、みんなに使ってもらうという仕掛けを有田区としてやるべきではないかと思っている。

ちなみに午後2時半から午後3時半ごろになると、子どもたちが10人から20人来ている。それから、ここの貸館は、ほとんど埋まっている。その中で見ると、雨漏りはあるし、1階のフリースペースには地域活動支援事業を活用して本棚を入れたり、キッズコーナーを作ったり色々やっているが、暖房がない。そういう点が、せっかく使おうと思っても、なかなかうまくいかない。また、一番いいところに生活環境課の資源ごみの集積所があるために集積車がすごい勢いでくる。そうすると事故の心配がないかということも含めて、一番活用度の高いと思われるカルチャーセンターの環境をどうやったらみんな使いやすくなるか、仕掛けていくとか考えることも必要なのではないか。個別に各町内でイベントをやる、こんなことに力入れたいと言っても、有田区全体に関わるところがなかなかないので、ぜひこのカルチャーセンターをもっと人が集まって使いやすくなるような仕掛けをテーマにしていいただければありがたい。

【栗間委員】

以前、卓球台を使用する際には、ラケットとか卓球の球とかを貸していただけるような感じだったが、今は貸し出ししていないようなことを聞いている。卓球台があるなら、道具を備えていつでも使えるようにしていただきたい。

【杉林委員】

私は卓球をするために平日の午前9時から午前11時まで、ほとんど毎日のようにカルチャーセンターに来ている。この会場の良いところは、使用料が無料だということである。上越市ではここだけだと聞いている。メンバーが15、6人いるが、遠くからは安塚区、柿崎区、高田区などからも集まってきている。それぞれ、自分でラケットやボールを買ってきて使用している。

【小池係長】

今、どこの施設も受益者負担ということで使用料を徴収している。カルチャーセンターの卓球台については過去に使用料の検討があったが、放課後に子ども達が遊びに来て気軽に体を動かせる場所として運用しているため、使用料を徴収していない。数年前までは、ラケットやボールを施設の方で備えて遊び用として子どもたちに貸していたが、すぐにラケットが壊れたりボールが潰れたりしてしまい、なかなか消耗品の購入は対応しきれなくなっていると思われる。中学生は部活の後にラケットを持ってきて卓球の練習をしている。今、高橋秀樹委員から、カルチャーセンターをいかに使いやすく、また、活用していけるか審議してはというご提案をいただいたが、もし、有田区地域協議会において、そのテーマでこれから掘り下げて話していくことに決定すれば、施設の現状を調べていくことになる。

【高橋秀樹委員】

例えば、卓球台はここだけ無料というのはもちろん聞いている。お金を取ると言ったら大変である。だから取らないで済むようにするにはどうすれば良いか。そのためにはラケットは自分のラケットにしてもらおうとか、どこかで泣かなくてはいけない仕掛けを検討しないと、今、電気も無料だが、電気をつけるとお金がかかる。そこも含めてどうするかも話題になっている。中には、卓球台を3台ぐらいにして、遊歩道を造ってくれという話も出ている。みんなが均等に使えるには、どうすれば良いかというルールを、こっち側で提案しないと、利用している団体だけで検討していると上手くいかない。ちなみに有料ではあるが、体育館も半面ずつ使うという運用もしていただいたりしている。

だから、大勢の人が使えて、あまりお金をかけないで、有効な仕掛けを作っていくために、何かしっかりした提案をしていくことが必要ではないかと思う。

【熊木会長】

今の自主的審議事項については、いろんな部分で検討していけばいいと思う。ひとつとは限らないので、高橋秀樹委員の意見も一つとして、揉んでいけば良いと思う。すぐにはなくて、また個々に持ち帰って考えていただいて、また全般を見渡していただいて、どういうことを審議したら良いかということを考えていただければと思う。

地域のお宝についてだが、有ると言えば有るし、無いといえは無い。いわゆる、判断基準はどうなのか。何をクリアしたらお宝なのかと言ったら、自分がお宝だと思えば何でもなるという感じである。家の庭の地蔵もお宝になるのか。それと同じだと思うので、その辺を担当課に精査してもらわないと、有田区と北諏訪区だけ無いということになると肩身が狭いとは言わないが、仕事をしないように思われるのも不本意である。

【高橋邦夫委員】

上越市の地域の宝については、市が認定したことで何が変わるのかよくわからない制度である。これは地域のお宝ですとプレートか何か貰えるレベルであろう。例えば、そこに対しての修繕だとか環境整備をするために助成金が出るとすれば、地域の宝に認定してもらおうと町内の負担も少し軽くなるし、いろんな活動で環境整備ができたり、そのことを住民に知らせたり、有田区の中で知らせたりして、皆さんから見てもらったり散歩コースに入れてもらったりとかいろいろ工夫があるが、今のレベルだと何だかよくわからない。

【小池係長】

昔、三ツ橋新田で民俗芸能があったが今はやっていないのか。

【高橋邦夫委員】

民俗芸能はあったが、団体として今は行っていない。以前は小学校の子ども達中心に指導していてずっと残っていた。子どものために頑張っているから応援していくという形で、芸能保存会みたいな形の名称は残していたが、中心になる人が亡くなられたので、行われなくなった。

【熊木会長】

上越市の地域の宝については、自分の地域をちょっと見ていただければ、これに類するものは必ずあるが、だからといってそれを載せるかと言ったら、少し抵抗がある。今

高橋邦夫委員が言われたように、お金を補助してくれる、継続するための補助というのであれば大いに登録したい。個人的だがお地蔵さんのお守りにもお金がかかる事は確かである。こうした制度を作って、市が認定して補助金を出してくれるのは非常にありがたいので、出してくれるように事務局で具申してほしい。

次に、「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

次回の協議会だが、令和3年度の地域活動支援事業の採択方針を決める時期が1月の下旬から2月上旬になるので、その辺りでご案内をさせていただければと思っている。

【熊木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。